

I オブザーバープログラムの概要

- IOC、IPC、リオ組織委員会が大会時に実施する学習プログラム
- 大会の運営の実際を、現地で直に学べる貴重な機会
- オリンピック開催時に48、パラリンピック開催時に71のプログラムに参加
- この他、大会時の状況について視察を実施

プログラム受講の様子



大会本番前の会場視察の様子



II リオ大会で得られた主な知見

1 輸送

- リオ市が開会式当日を休日にするなどの交通需要マネジメントを実施

休日の様子
(写真右端がオリンピック・レーン)



2 ボランティア

- 観光地、駅、オリンピックパークなどに設置された案内ブースにおいて、観光・交通案内を実施（ポルトガル語、英語のガイドブック・マップを配布）

案内ブース

案内の様子



3 セキュリティ

- 自主警備の他、各州警察等特別派遣部隊（国家治安部隊）による警備もあり

各州警察等特別派遣部隊
による警戒（会場内）



4 持続可能性

- 仮設施設の一部は、建築に使用されている柱、梁、エレベータ、トイレ等を解体後に再利用することを前提に整備

フューチャーアリーナ
(再利用される鉄骨、梁等)



5 飲食の提供

- 選手村等では、リオ州やブラジル国内産の食材を優先的に調達

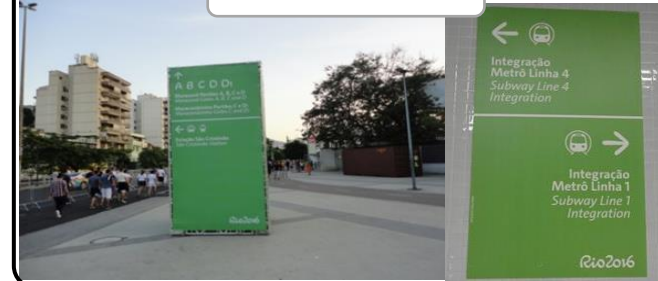
選手村のカジュアルダイニング
(ブラジルの肉料理を中心に提供)



6 標識・サイン

- リオ大会の案内表示は緑に白字で統一
- 言語は基本的にはポルトガル語と英語の二か国語表記

大会案内表示



7 シティドレッシング

- 競技会場の最寄駅から会場までの道路を中心に、大会ルックの幕や大会マスコットのバナー等による装飾を実施

道路上の装飾



8 ライブサイト

- 大型ビジョンでの競技中継だけでなく、競技体験やブース出展などにより、エリア全体の賑わいを創出

市民で賑わうライブサイト会場



9 ハード面のバリアフリー

- 移動経路においてはスロープやエレベーターにより段差を解消、会場内においては車いす席・同伴者席を設置

段差解消用スロープ

車いす席・同伴者席



10 ソフト面のバリアフリー

- 競技会場内触知案内図、大型ビジョン等により、障害特性に応じた情報を提供

触知案内図

大型ビジョンによる
文字情報の提供



11 市民を巻き込む取組

- 学校現場でのオリンピック・パラリンピック競技の体験
- 市民に障害疑似体験の機会を提供

競技体験イベント



12 大会を支える都市運営

- 既存のオペレーションセンターを活用し、交通・医療情報を集約するなど、円滑な大会運営を支援
- 競技会場周辺や観光地等において、来訪者のための給水所や仮設トイレ等を設置



都市オペレーションセンター



給水所